

氏名	千 真圭 (チョン チンギュ)
学位の種類	博士 (芸術)
学位記番号	甲第4号
学位授与日	平成17年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
論文題目	— 日本近代版画の誕生とその時代的役割を中心に —
審査委員	主査 教授 李 禹 煥 副査 教授 本 江 邦 夫 副査 教授 島 尾 新 副査 元筑波大学教授 藤 井 久 栄

## 内 容 の 要 旨

本論文は、【第一部・論攷編】と、多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程と博士後期課程において、1997年から2004年の期間に制作した作品群を集めた【第二部・作品編】から成る。

第一部の論攷編は、論題である日本の近代美術における近代版画がまとまった形で大きなうねりを示すようになり、「創作版画」が技法と表現の両面から多極化していく時代に焦点を当てている。

第二部の作品編は、私が多摩美術大学の在籍の間に制作したもので、版画技法上の特徴である「木版によるリトグラフ」と空間構成における「美的な再現」という実践行為としての造形性の問題を、「版」という宇宙的空間に作品群として具現化し、具体的な造形芸術、いわゆる実践芸術として制作されたものである。

論文の後半部に掲載している作品・I、II、III、IV、V、VI、VII、VIIIは木版によるリトグラフ作品であり、作品・IX〔空間の再構成による絵画術〕の作品4点は平版画(リトグラフ)の作品群で構成されている。これら個々の作品は、それぞれに対する私自身の独自の造形的意味を持つ作品でありながら、創作者の思考とイメージ形象化の総体として提示されている。

先ず、本論の研究意図である日本近代版画について論述する。日本の近代版画は、江戸幕末から明治・大正に至るまでの経済的・社会的・文化的でいわゆる“近代化”という波に乗った転換期の中で、日本の近代版画が個別の美術的ジャンルとして自己を確立しようとした動機について考察する。

本論文の研究目的は、日本近代版画の歴史と役割について検証し、作家の個性によ

る造形的発想や表現の尊重によって、芸術における積極的な美の主張が見られた近代美術の受容過程における“版の絵”即ち“版画”(Fine print)についての探求をすることにある。さらに、様々な版画技法における技法の変貌と芸術的可能性についても明確にしていきたいと考える。

今日の版画芸術を見れば分かるように、技法の多様化による「版」の機能性と、素材開発と共に拡大されつつある一般的な美意識の転換や、作家自身が持っている芸術的感覚に合わせた作品制作は、自己の規範を徹底させた表現として拡張しうることを立証する。

本論文は以下のような構成をとる。

第一章では、日本創作版画の草分けである山本鼎の創作版画《漁夫》について述べる。さらに、「漁夫」が日本近代版画史に与えた美術的意義を論述する。「版画」が美術的用語として定立されていない当時の社会的、文化的状況の中で現れた、近代的な版画にたいする新しい美的な再認識を、山本鼎の自画・自刻・自摺作品を通した創作意識の主張として述べる。

第二章では、創作版画が極めて肯定的評価を得ることになったきっかけを私は、「方寸」時代を迎えて、という表題のもとに論じる。日本の近代版画が雑誌と関係することによって、その展開を見せ、版画の独自の領域を再構築することを可能にした美術的概念について述べる。

第三章では、伝統的な美学としての浮世絵版画にたいする革新的な美学としての創作版画を理論的に考察する。浮世絵版画が「芸術方向性」の前提として、方法論的な見直しを迫る芸術性を捉える本質的領域の「純粋性」を求められている原因を探る。同じ時期に起った「創作版画運動」と渡辺庄三郎の江戸趣味を強調した「新版画運動」が美術史に与えた存在論的価値観について論述する。

第四章では、近代版画の発展における美術と雑誌との関係性について述べる。

第五章では、日本創作版画協会の誕生とその美術志向的構成、すなわち美術的版画を志向しつつあった「版画」が、「工芸的性質」から「造形的本質」へと方向を変えてゆく過程について述べる。

第六章では、【論攷編】の結語として「伝統美学」について私見を述べる。現代版画の具体的な造形要素あるいは制作の在り方について論じる。また伝統版画や「凧」の造形的な可能性と意義を述べながら、私の版画作品に内在する現代的造形要素に注目する。

第七章では、【作品編】として、私自身が創作者として、「制作と享受」、「平面性」、「表現性」、「再現性」、「技法性」の諸問題を列挙しながら、作品写真を掲載したうえで凧の芸術に関する自分の考えと技術的方法について述べると同時に、伝統的な現代版画における造形的・技術的可能性について考察する。

まとめでは、以上の考察によって、自分自身が受け止めた新版画技法(木版リトグラ

フ)の新しい認識や今後の作品制作に向けた考えをまとめる。